

敗戦後60年を覚えて

アジア・太平洋戦争での日本の敗戦から60年経ちました。その後、日本のキリスト教各教団・団体は、自らが戦争に加担しキリスト者の責任を放棄した罪を告白し、神と隣人に赦しを請いました。しかし、敗戦後60年の今日、私たちは日本がいまだに真の悔い改めをなさず、進む方向を変えていないことに気付き、そのような社会を作ってきた怠慢の罪を告白します。

天皇の戦争責任を明確に追求しないままに、1952年4月28日、日本はサンフランシスコ条約発効により占領から「独立」しました。同時に、旧植民地から連行された人々は外国人登録法と出入国管理令の管理下に置かれました。同じ日に日米安全保障条約が発効し、それを支える米軍基地の大部分は沖縄に置かれました。

この出発が、その後の日本の歩みを決定しました。日本は米国の軍事力に安全を託し、米国と一緒に戦争のできる国を目指してきました。米国の覇権主義に従い、他国を貪り利益を得てきました。アジアの一員であることを忘れ、「日本人」以外の人を排除し管理する閉鎖的な社会を作りました。過去の軍国主義と植民地主義の過ちを正当化する論調が復活しています。この結果、日本社会は、モノにあふれていながら、自然環境は破壊され、住みにくく希望を持ちにくい社会となっています。特に、社会の隅に追いやられた人々の苦しみは深刻です。

敗戦後60年にあたり、私たちは、もう一度、日本の進む方向を変え、非暴力に徹し、和解と共生の社会を目指して働きたいと願います。

- * 私たちは、十字架の主イエス・キリストの神のみを唯一の神と信じ、他のものを崇めることをしません。それゆえ、思想・信教の自由を守り、日の丸・君が代の強制に反対します。
- * 罪を告白し、神に赦された者として、日本が過去の罪を公に謝罪し、日本軍「慰安婦」などをはじめ、戦争の被害者に償うよう働きます。また、靖国神社による戦争の美化、歴史を歪める教科書などの問題に取り組み、ふたたび同じ道を歩むことのないよう働きます。
- * イエス・キリストは、自ら弱い者となられ、それによって神と人の平和を実現なさいました。私たちも、武力によらず、非暴力で平和を作り出すために働きます。平和憲法を守り、沖縄・辺野古のヘリ基地建設に非暴力で反対している人々に連帯します。
- * イエス・キリストは、自らを徹底的に低くして、仕える者となられました。私たちも、「障害者」、移住労働者など、弱い立場に置かれた人々の人権が守られる社会を築くために働きます。
- * イエス・キリストは、自分のように隣人を愛しなさいと教えられました。私たちは、世界の他の地域の犠牲のうえに自分の豊かな生活を保つことを止め、他国の領土や資源を奪う試みに与せず、経済的に公正な社会を築くために働きます。

私たちの進む道は厳しいものになると予想されます。しかし、私たちは、すべてが神の導きの下にあることを信じます。命にいたる道は狭いとの言葉に希望をかけ、永遠なるものに目を向け、真実な神の声に聞き従って進んでいきたいと願います。

私たちの歩みを神が支え、近隣諸国の友が見まもり導いてくださるよう心から祈ります。

2005年8月

日本キリスト教協議会
議長 鈴木伶子
総幹事 山本俊正